

玄関から始まる新しい家づくり

トステム,フォラード・N17型 採用に当たって

日本人の玄関戸感ほどあいまいなものはない、のではないだろうか？

いままではどちらかというと、玄関戸は施主個人が望むものより、供給側の理論により選択されてきたと言って過言ではないと思う。

ハウスメーカーや中小工務店はセンスの差こそあれ、比較的豪華な形を好む。

又は、自らの意匠（なにになに風と称するもの）にあったデザインを提案する。

欧米と違って長いアプローチを確保できない日本に於いて玄関は家の顔であると考えているからだ。

又、彼らの殆どのプランが南入りであることもその要因の一つを担っていると思う。

反面、建築家を中心とするいわゆる意匠系は豪華さより、さりげなさや、独自性のあるものを好む。彼らは豪華を好まず、無機質な空間のなかに穿たれた開口ぐらいにしか扱わない、玄関は靴を脱ぐ場所であり決してそれ以上ではない。しいて言えばその先から始まる魅力的な空間の序章と言うぐらいにしか考えていないのである。

近年デザイナーズハウスと称されるモダンスタイルの住宅がもてはやされるようになり、サッシメーカーを中心とする玄関戸を供給する側は様々なタイプの商品を販売するようになった。

トステムのフォラードはそれらを一つのまとめたカタログである。

同価格帯の中に、デザインやコンセプトに応じた商品を系列的にまとめたものであるために、選択する側にとってはとても見やすいカタログになっていると思う。

今回計画した住宅はナチュラルモダンがテーマである。

シンプルな中に自然の息吹を感じさせる素材感のあるものが随所にあると空間に安らぎが生まれる。

玄関戸は、単なる通過動線の覆いでしかないが、そうは言っても、近接で見るとあり、手で直接触れるものである。又、毎日何度も使うものでもある。

出て行くとき、そして帰ってきたときに、開け心地とともに素材の質感を問われるのは致し方ないし、来客にとっては、バリアーでもありやっぱり家の顔に相当するものでもあるだろう。

本物の質感を感じさせるテクスチャーと、スタイリッシュであたたかみを感じさせるデザインを持つフォラード・N17型を採用した理由は前述の理由をクリアーしてくれる商品

であるからだ。スナッグウォールナットと言う色合いも白木を彷彿させてくれて耐久性と意匠性を見事に両立しているのもうれしい。

45 度に振ったポーチはアプローチの距離を確保するためでもあり、壁に沿って近づく事によって普段とは違った表情を見せてくれる。

又、ポーチのスリットから垣間見える外の景色(高台のため)も仕掛けのひとつである。

雨風を防ぐ居心地の良い(あるいは悪い)空間から中に入ると白い壁と板張りの天井を持つホールが迎えてくれると言う塩梅になっていて、外 内、明 暗、寒 暖、厚 涼の切り替えのスイッチがはいる重要な場所であると考えられる。

玄関戸は内外をつなぐ仕切りであり、開けると別の空間が待っていると言うそこはかとないうらみを感じさせるものの象徴でもあると思う。

すっきりとした、肩肘張らないデザインこそ私が目指している住宅のデザインに相応する。それを実現してくれる商品こそフォワード N17 型であると思う。